

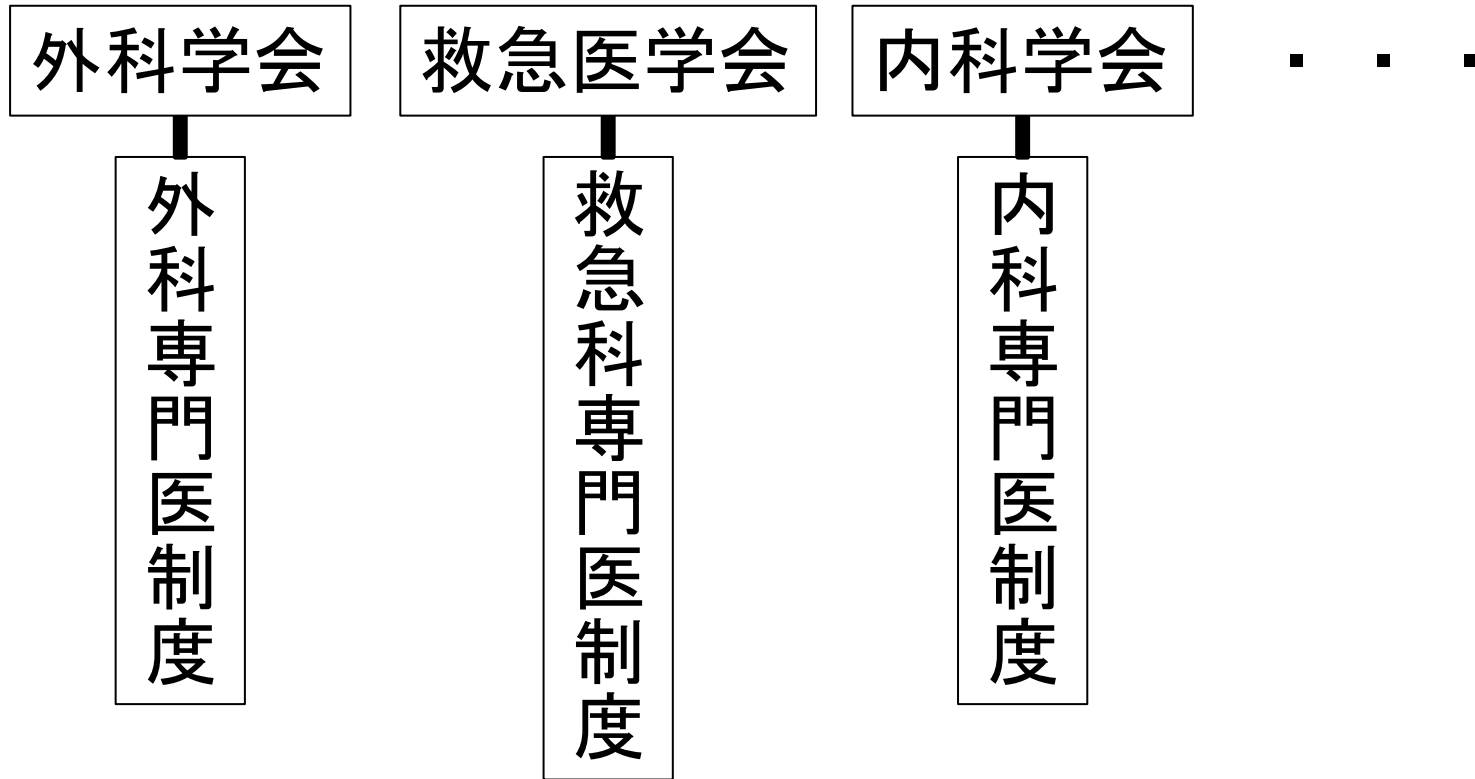
平成27年度全国MC協議会連絡会(第2回)

救急科専門医制度がメディカルコントロールを 重視する理由

～日本専門医機構による新専門医制度への
移行に向けた準備～

全国メディカルコントロール協議会連絡会 会長
日本救急医学会 代表理事
行岡 哲男

従来の専門医制度：学会が管理・運営する専門医制度



専門医証書の発行者は、各学会の代表理事。
各専門医はそれぞれの学会の会員であることが必須。

日本専門医機構の専門医制度

外科専門医

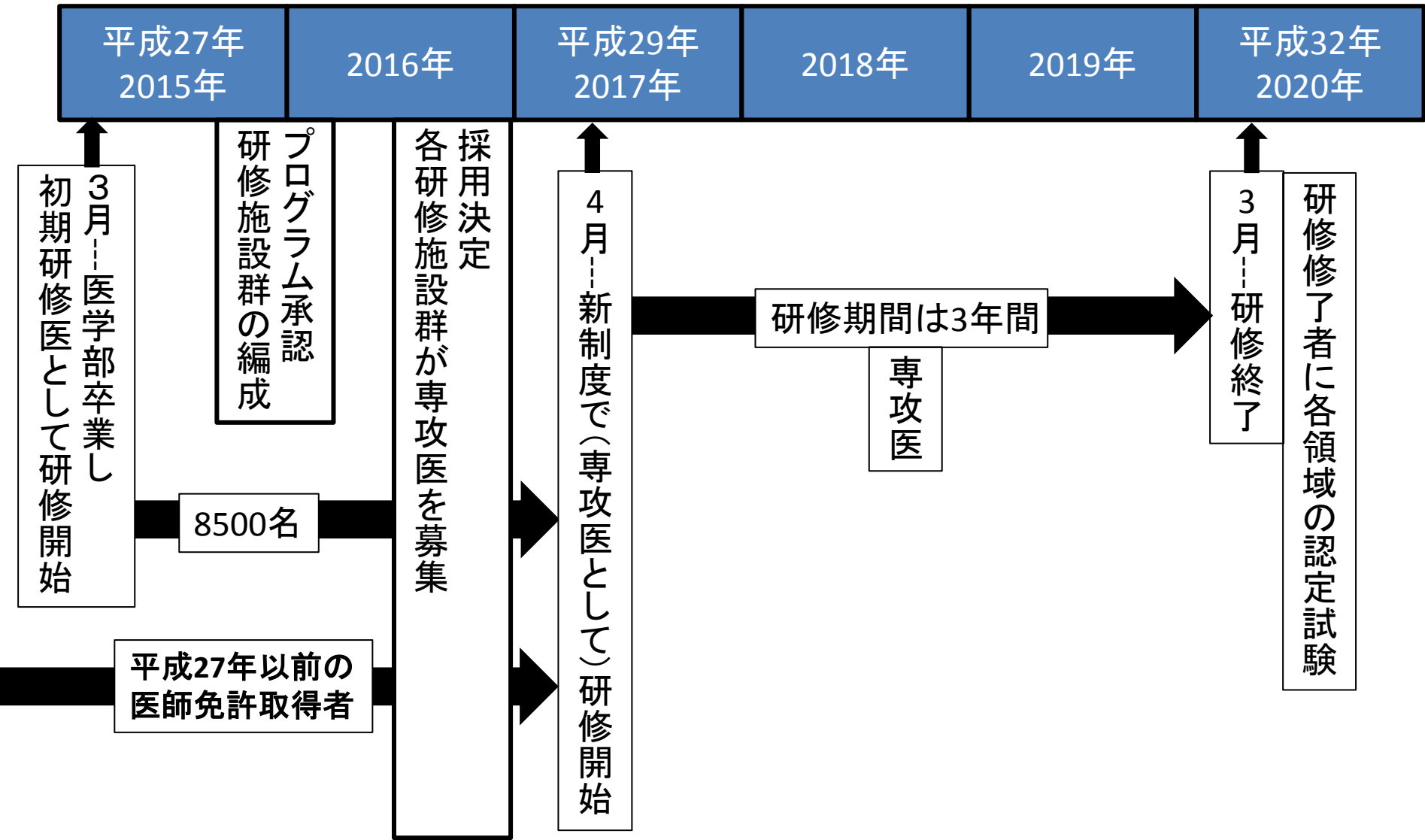
救急科専門医

内科専門医

(19の基本領域専門医)

専門医の研修制度、水準の統一化。
社会からの「専門医」の分かり易さ。

専門医証書の発行者は、専門医機構の代表理事。
基本領域となる19の専門医をまずは認定する。



「専門医」とは、

それぞれの診療領域における

適切な教育を受けて、

十分な知識・経験を持ち、

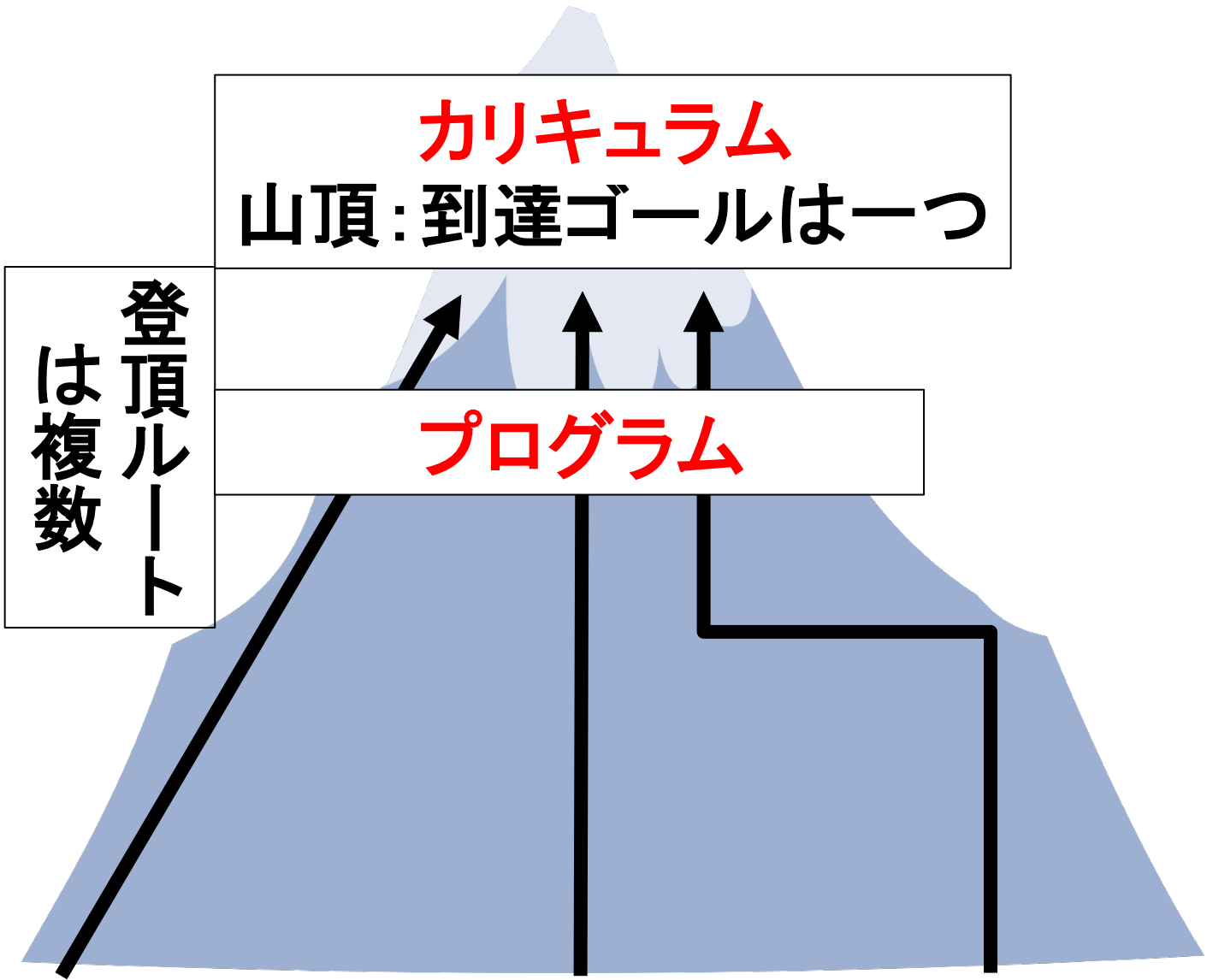
患者から信頼される

標準的な医療を提供できる医師

と定義されます。

新専門医制度理解の
キーワード1:

カリキュラムとプログラム



カリキュラム
山頂: 到達ゴールは一つ

登頂ルート
は複数

プログラム

カリキュラム

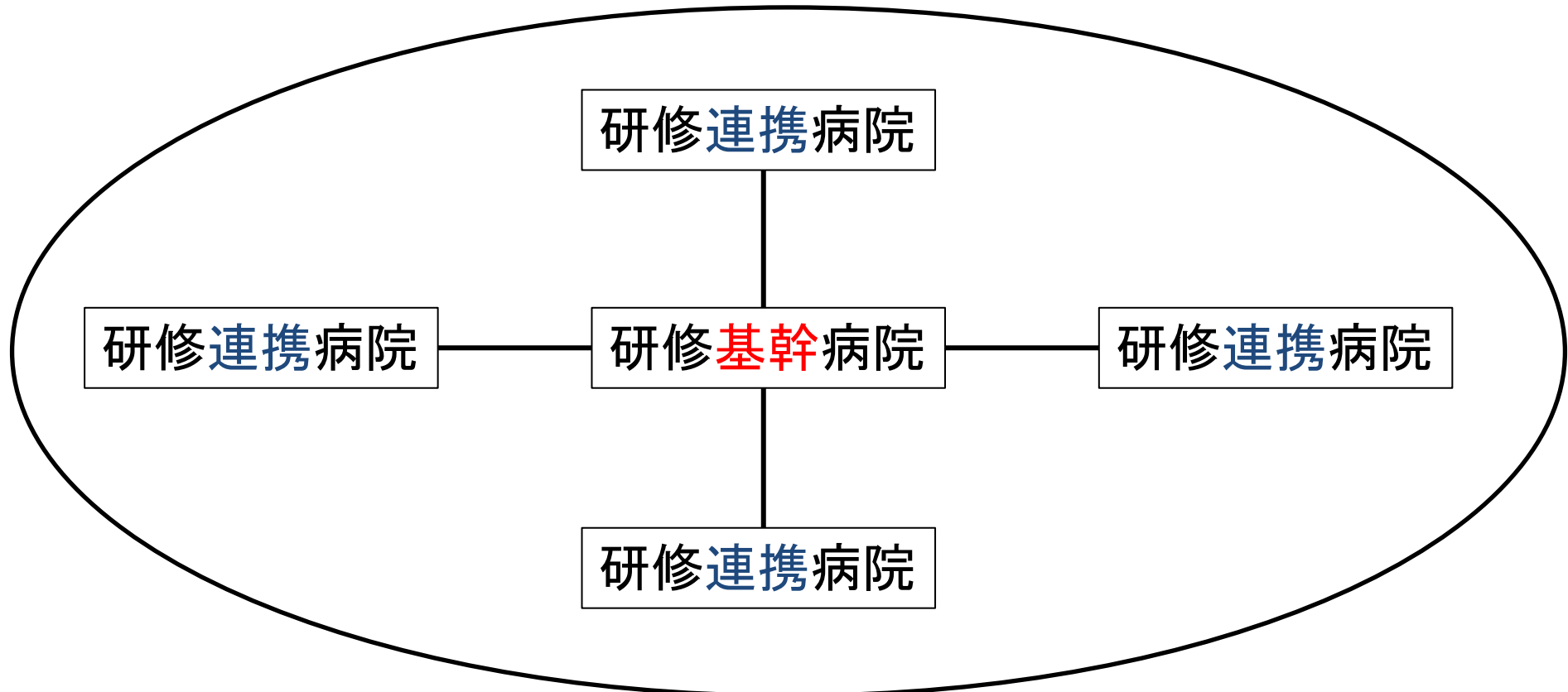
新制度でも(従前からの)大枠の変更なし。
ただし、メディカル・コントロール(MC)への
関与能力を到達目標に組み込む

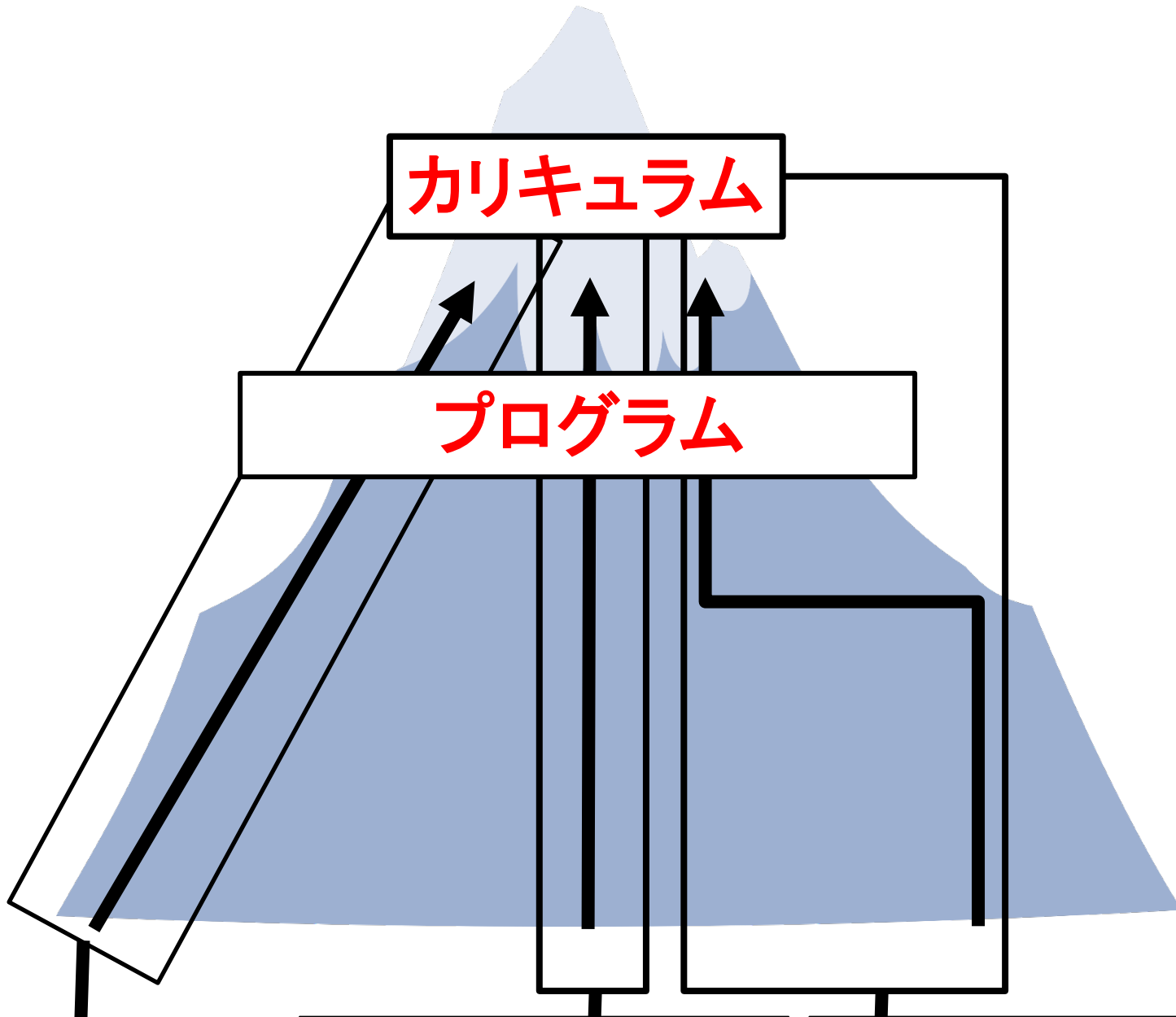
プログラム

プログラム整備基準やモデルプログラムを参照し、
各研修施設群が魅力的なプログラム(登頂ルート)を
練る必要あり。

救急科専門医の場合

新専門医制度理解の
キーワード2:
研修施設群





カリキュラム

プログラム

A 研修施設群

B 研修施設群

C 研修施設群

救急科専門医
X研修施設群

専門医教育
の担い手

地域救急医療
の担い手

地域MC体制
の担い手

基幹病院

連携病院1

連携病院2

⋮

育成される救急科専門医は
地域の救急医療・MC体制の
次世代の担い手

日本専門医機構

外科専門医

内科専門医

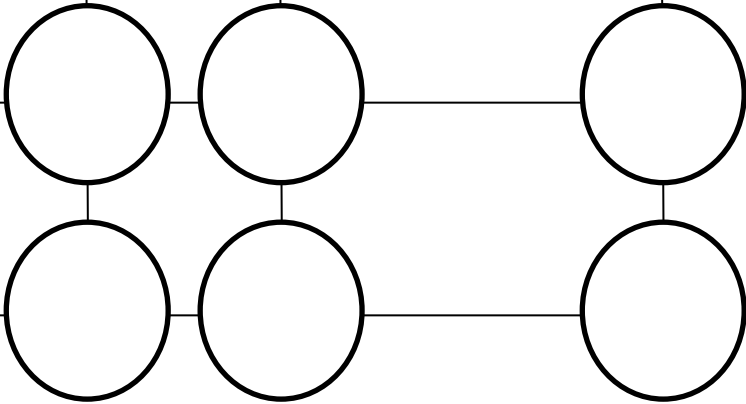
...

救急科専門医

委員は各学会からの推薦

研修プログラム
委員会

認定委員会



救急医学会からは
2つの委員会を同一
メンバーとした。

- | | |
|----|----|
| 石倉 | 宏恭 |
| 奥地 | 一夫 |
| 木村 | 昭夫 |
| 坂本 | 哲也 |
| 谷川 | 攻一 |
| 堀 | 進悟 |
| 行岡 | 哲男 |

**救急科専門医制度がメディカルコントロールを
重視する理由。**

医師法 第一条

医師法

第一条 医師は、医療及び保健指導を掌ることによつて公衆衛生の向上及び増進に寄与し、もつて国民の健康な生活を確保するものとする。

医師は、国民の健康な生活を確保するものとする。

医師は「公衆衛生の向上及び増進に寄与」
することが求められ、
これは「医療及び保健指導を掌ること」
により行います。

医師法

第一条 医師は、医療及び保健指導を掌ることによつて公衆衛生の向上及び増進に寄与し、もつて国民の健康な生活を確保するものとする。

医師にとって、手術実施や処方箋発行(=医療を掌ることの一部)は、重要です。そして、「公衆衛生の向上及び増進に寄与」すべく、システムとしての医療に関わることが求められます。

一人一人の救急患者の診療が救急医にとって重要であると同様に、医師法第一条の考えに基づくなら、地域の救急医療体制の構築や運営への関与も重要です。

全国メディカルコントロール協議会連絡会「開催要綱」

平成27年4月：現行版

MC協議会の目的：応急処置等の質を医学的観点から保障すること

MC協議会の機能は、更なる充実・強化が求められており、今後、**救急医療提供体制を構築する場**としての活用も期待されている

以上の理解を踏まえれば、
MC協議会やMC活動の各局面で
救急医がこれに関わることは重要です。
となれば、MCへの関与能力は、
救急科専門医の要件としても重要です。

新専門医制度では、
地域医療が重視されています。

救急科専門医の専攻医は、
専攻医・指導医とともに
直接MCに参加します。

メディカルコントロールという概念に基づき、
実際に存在する組織（MC協議会）を踏まえ
カリキュラムやプログラムに
地域（救急）医療との関わりを
具体化しているのは、
救急科専門医制度のみです。

専攻医の評価は、
「360度評価」が基本となります。

「360度評価」とは、指導医だけでなく
多職種（看護師・薬剤師等々）も
関わる評価方法です。

「360度評価」は、
多様な視点からの評価実施により、
公平・客観的で総合的な
判断を目指します。

「360度評価」にもリスクはあります。

特に、評価者が
評価すべきことや、
「360度評価」の意義を
十分理解していない場合には
リスクが大きくなります。

今後、救急科専門医プログラムによっては
救急救命士、特に、指導救命士に
ご協力をお願いすることもあると思います。
その節は、どうぞ宜しくお願い致します。